

明石祥子

フェアトレードシテイクまもと推進委員会事務局代表

フェアトレードを安定したものとするためには、その支持層の拡大に加え、継続的な購買層が必要となってくる。そのとりくみを、個人や単体のお店・企業の枠を超えて、まちぐるみで支持し、応援をする活動が広まりつつある。

フェアトレードタウン運動

熊本市は二〇一一年六月、アジア初、世界で一〇〇番目のフェアトレードタウンに認定された。フェアトレード（以下FT）とは、公正な貿易の実現を目指す、対話と透明性、敬意の精神に根ざした貿易のパートナーシップのことである。フェアトレードタウンとは、そうしたFTを「まちぐるみ」、つまり、まちの行政、企業・商店、市民団体などが一体となって応援する運動のこと。二〇一三年九月現在、FTタウンは世界で約一三五〇都市になった。人口に応じて、タウンまたはビレッジ、シティ、エリアとよばれることもある。

「市民がFTを応援する街」として、わたしがFTタウンの存在を初めて聞いたのは二〇〇三年であった。その当時、FTタウンはイギリスに一七都市。それがこの一〇年間で二四カ国に広がり、数も一気に増えた。しかし、アジアでは熊本市に続くFTタウンは未だあらわれてはいない。そのほとんど

は欧米諸国にある。

二〇一三年五月リオデジャネイロでWFTO（世界フェアトレード機構、七五ヶ国四五〇団体以上の加盟）の世界会議がおこなわれた。総会では、「WFTOとしてFTタウン運動に積極的にかわかり、推進すること」が満場一致で決議された。しかも驚いたことに、近い将来FTタウンの数は三〇〇都市へ増えるだろうとの予測が発表された。FTタウンの世界的な拡大により「FTが普通になる社会」が実現できるのではと、内心期待している。

フェアトレードシテイクまもと熊本市誕生

熊本市の人口は七三万人。今年、地下水保全の取り組みから国連により「生命の水」最優秀賞を受賞した、世界有数の地下水都市である。また、熊本県の阿蘇地域は世界農業遺産にも登録され、「くまモン」もゆるキャラで日本一になった。

追い風だった。そして遂に、二〇一一年二月、熊本市議会が「フェアトレード理念周知に関する決議案」が満場一致で議決された。また、その日におこなわれた記者会見で市長も賛同の意向を表明したことで、二〇一一年六月FTシテイクまもと熊本市が誕生した。

熊本から世界へひとつなぐフェアトレード

二〇一四年三月二九、三〇日に第八回FTタウン国際会議が熊本市で開催される。会議の主旨は「アジアへのFTタウンの拡大」である。文字どおりアジアの国々へFTタウン運動を伝えることを目的として、各国・国内より二〇〇名の参加を見込んでいる。前日三月二八日には市民へのわかりやすいアプローチとして各国生産者のFT商品見本市、大学生のサミット、全国のグリーン経営者会議などを企画。実例としてブータンのオーガニックコットンの取り組みを紹介し、講演会、分科会などを通じて、FTをわかりやすく伝える予定だ。熊本市の共催により熊本市国際交流会館で三日間に渡り開催する。全体のテーマを「熊本から世界へひとつなぐフェアトレード」とした。世界的な広がりを見せるFTタウン運動。しかし、まだまだ市民の理解は少ない。アジア唯一のFTシティで開催される国際会議を、人と人をつなげる事から始めたい。まず、知り合い、語り合う場になればこの思いを込めている。ありがたいことに、最高のおもてなしをしたと、たくさんのボランティアが集っている。お城祭り開催中、桜満開の熊本城を背景にして、ともに語り合う機会としたい。

一九九三年、熊本市の中心部にある住宅街（自宅）でFTの店をはじめた当時、FTの翻訳本が数冊はあったと記憶している。販売の度にFTの説明をしても商品の数も少なく、伝えることが難しかった。NGOを立ち上げ広報活動に務めてはいても、どうすればFTを普及させることができるか悩んでいた。そんなときにFTタウンの存在を知った。FTを応援する市民が住む町が存在すれば、これまでのFTが抱える問題が解決できるかもしれない。とりわけ購買力の低さを、多くの市民の理解と実行で解決できるのではと、大きな可能性をもって取り組んだ。購買力が継続と拡大を期待できるからだ。

日本でFTタウンの認定を受けるには、FTTJ（フェアトレードタウン・ジャパン）の定める六基準をクリアする必要がある。それらは、一、推進組織の設立と支持層の拡大 二、運動の展開と市民の啓発 三、地域社会への浸透 四、地域活性化への貢献 五、地域の店（商業施設）によるFT商品の幅広い提供 六、自治体によるFTの支持と普及である。

まず二〇〇九年八月にフェアトレードシテイクまもと推進委員会を立ち上げた。各基準にそれぞれ担当者をつけて、その基準内容に合うように努めた。特に六番目の基準は地元議会での承認を必要としており、とても苦労した。FTの理解を深めてもらうために、市議会議員を対象に勉強会を開催したり、市民への認知度を高めるため、一人分の署名を集めて市議会へ提出した。NGOの若者達と手当たり次第に挑戦し、あきらめなかった。熊本市はかねてから国際交流が盛んであり、多文化共生や開発援助に関心をもつ市民が多いことも

認定を記念したパレード



認定授与式



ポリビアの生産者と筆者



ブータンのオーガニックコットン生産者と筆者

ポーランドでおこなわれたFTタウン国際会議

